

久美浜学園

学園運営協議会だより



久美浜学園 学園運営協議会事務局 R8.5.27 【☎82-0079(久美浜中)】

5月19日 第1回学園運営協議会 実施

久美浜学園保幼小中一貫教育も11年目に入ります。久美浜学園の最高学年である中学3年生は、保幼小中一貫教育という環境の中で、学び育ってきたこととなります。久美浜学園が掲げている「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心もち 根気強く努力する子どもの育成」が実現できるよう、各運営協議会委員がそれぞれの組織や立場で、久美浜学園の保育・教育を見守ってきました。第1回学園運営協議会において交流したことや確認したことをより多くの皆様にお伝えし、さらなるご理解ご協力をいただきたく思います。

本会の運営方針



- 1 久美浜学園の子どもの現状や課題を出し合い、共有化する。また、「久美浜を支える人」として、子どもたちにどう育ってほしいかを出し合い、共有する。
- 2 久美浜学園の基本方針の承認、久美浜学園の活動評価を行う。久美浜学園の取組を理解するため、学園行事や学校行事を積極的に参観する。
- 3 各団体の取組を交流し、子どもに関わる取組について知る。可能であれば、共通して取り組める内容について探る。
- 4 部会別交流を行い、テーマを設け話し合いを深める。
 - ア 地域活動部：子どもに関わる地域活動の交流、学校との連携
 - イ 安心安全部：見守り活動の交流、地域の安心安全の状況と取組の交流
 - ウ 学園評価部：学園の取組や取組の方向性についての意見交流
- 5 協議会の内容、地域活動、各団体の活動等を広く地域住民に広報する。
(協議会だよりの発行、学園ホームページの活用等)

久美浜地域を支えるたくさんの組織から19名の委員が参加しています。

学園運営協議会 記録

開会の言葉・学園活動方針



谷口 協議会長

私は学園目標の最初に「ふるさとを愛し」と記されているところが大好きです。私も、この地域を思う気持ちは誰にも負けない自負があります。子どもたちが将来「故郷に帰ってきたい」と思う心は、小中学校時代の多感な時期に、どれだけ故郷を深く知り、愛着を持てるかにかかっているそうです。まさに今が、将来の久美浜を左右する「勝負の時」なのです。本協議会は、単に学校を応援するだけの「応援団」には留まりません。地域の大人が具体的にアクションを起こし、子どもたちのために汗をかく「動く協議会」でありたいと考えています。大好きな久美浜の未来を、共に作っていきましょう。

小森 学園代表校長

現在、久美浜中学校の生徒数は211名ですが、10年後の令和18年度には、約半数の125名にまで減少するという衝撃的なデータが出ています。この少子化という厳しい現実、もはや学校単独で解決できるものではありません。これからは学校、地域、行政が「総がかり」で子どもを育てる時代です。学校側も「支援してもらおう」という受け身の姿勢を捨て、「学校が地域のために何ができるか」を皆さんと共に模索していきます。10年後の久美浜を担う子どもたちのために、皆さんの知恵と元気をお貸しください。

杉本 学園事務局長～久美浜学園 活動の4つの柱

- | | |
|----------------|--------------------------|
| ①教職員の協働 | 対話・共有・相互理解 |
| ②落ち着いた校・園・所づくり | 生徒指導4視点の機能化による学習・生活意欲の伸長 |
| ③行動連携の積極的推進 | 目的(子どもの姿)を明確にした交流事業 |
| ④久美浜を支える人づくり | 地域で学ぶ・地域に学ぶ～保護者・地域連携 |



部会別交流から

地域活動部会

チャレンジ教室(かぶと山小校区中心)・二区子ども広場(久美浜小校区中心)・土曜お楽しみ会(高龍小校区中心)が、子ども達に豊かな体験をさせてやれるよう活動を続けてきている。学校や家庭では味わえないような体験の実施、子ども同士あるいは地域と子どもがつながる場となることも目指している。また、湊地区では、子ども達の発想を生かしたお祭り企画に取り組んできている。地域と学校の連携が深まるような取組を考えていく。



安心安全部会

子ども達の安心安全を考えると、登下校の場面はとても気をつかう。地域の方の見守り活動や警察のパトロールは本当に心強い。夏の暑さ、雪道の通行については、対応を検討していかなければならない。安全な通行を促す看板をPTAと連携して取り組めていて効果的である。子ども達のあいさつはさらなる元気を期待したい(班もある)。「安全」について、まずは家庭で考えさせる。地域と連携しながら様々な経験によって危険を予測する力を身に付けさせることが大事である。



学園評価部会

授業参観、運動会、合唱祭などで子ども達の姿や様子を把握している。また、地域の行事でかわりを持つようにしている。PTA・保護者会活動に参加する中で、丹後だからこそできる経験をさせてやりたいと思う。地域が子どもを育てる場を大切にしたい。

学校や地域で子どもたちを見て、「姿勢」「歩き方」がより良くなってほしい。子どものうちに正しく身に付けさせてやりたい。



あなたの経験が、本物の教育をつくる：学校支援ボランティア

昨年度実績

学習指導・部活・環境整備支援：

【延べ214人】
(129日)

登下校の安全見守り：

【延べ 3003人】
(403日)

「現在、登録者数は減少傾向にあります。」



【久美浜地域公民館】

子ども達を対象とした「とうげい教室」「親子のふれあい教室」などを企画しています。地域の中で、大人と子どもがふれ合える事業を実施しますのでぜひご参加ください。



閉会の言葉

榎本 副協議会長

学園運営協議会は、これまで「学園の応援団」として活動してきた経過があります。ただ「頑張れよ」と声をかけるだけではなく、実際に動く協議会でありたいと思います。学校を取り巻く様々な課題は「酷暑」「熊」「大雪」といった予測できない状況にあります。ぜひ、「助けてほしい」といった声を上げていただいて、その声に応えられるよう皆さんで協力して行動していきたいと思ひます。

